

並木病院職員における新型コロナウイルス感染症の発生について（御報告）

令和3年8月18日午後、発熱と倦怠感を主訴に発熱外来を受診した職員の院内PCRが陽性で新型コロナウイルス感染症に罹患していることが判明しました。

当院は新型コロナウイルス感染症対策として、常時マスクとフェイルシールド（又はゴーグル）着用で勤務しており、濃厚接触者に該当する者はいませんでした。速やかに（同日夕方）当該職員が勤務していた病棟の全入院患者様と全職員の院内PCRを実施し、全員の陰性を確認しました（入院患者様22名、職員18名）。

感染防止のため、当該病棟は8月18日から28日まで隔離し、健康状態の観察を行いました。新型コロナウイルス感染症を疑う症状を呈した患者様、職員は発生せず、患者様1名が急性胆嚢炎で転院治療となりました（転院時の院内PCR陰性）。28日夕方に隔離されていた全入院患者様21名と、罹患職員と夜勤を共にした職員1名の院内PCRを再度実施し、全員の陰性を確認致しました。結果を受けて、29日朝から通常対応に移行しています。

この度の職員の感染は予防接種2回を完了した後に起こっており、ブレイクスルー感染でした（後日ウイルスは変異株、デルタ株であること判明）。

この度は、患者様、御家族様には御心配、御不便をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。市中での感染爆発は続いており、職員一同、厳重な感染管理下で患者様の診療・看護・介護を続けて参ります。

今後、新たな新型コロナウイルス感染が発生した場合は並木病院ホームページで御報告申し上げます。

令和3年8月30日

並木病院長 赤津拓彦